

1. 評価結果概要表

作成日

平成 21 年 3 月 26 日

【評価実施概要】

事業所番号	4091400061		
法人名	社会福祉法人 誠和会		
事業所名	グループホーム すみれの花		
所在地	福岡市早良区荒江3丁目20番3号 〒814-0021 (電話) 092-833-1880		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成21年3月25日	評定確定日	平成21年5月15日

【情報提供票より】(平成 21 年 2 月 28 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 20 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 6 人	非常勤 1 人 常勤換算 6.2 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 3階建ての～ 2階部分		
------	---------------------------	--	--

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	57,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (一時金を含む)	有(300,000 円)	有の場合 償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日あたり		1,500 円程度	

(4) 利用者の概要(2 月 28 日現在)

登録人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護 1	2 名	要介護 2	2 名		
要介護 3	3 名	要介護 4	2 名		
要介護 5	名				
要支援 1	名		要支援 2	名	
年齢	平均 83.7 歳	最低	75 歳	最高	89 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	牟田病院、許山歯科
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人全体の方針として、「より暖かく確かな福祉介護をめざし地域社会に貢献したい」を掲げ、地域密着型介護老人福祉施設としてケアを提供するなかで、利用者一人ひとりが心豊かにおおらかに過ごしてほしいとの法人代表者・施設長などの思いのもとに建てられたホームである。ホームの敷地内には、果樹園や屋上庭園があり、季節の花や外の空気を楽しめる。日々の散歩や屋上庭園での収穫を自然と行えるような環境とかがわりが工夫され、利用者の作品の数々に囲まれた空間づくりを行っている。また、地域の体育祭や町内会の清掃に利用者が参加するなど、地域に溶け込んで地域とともに歩んでいくという法人全体の目標とともに「ゆっくり・にっこり・しっかり」の理念のもと、利用者が楽しみながら心豊かに過ごせる雰囲気がある。開設して1年余りのホームでありながら、今後の発展が大いに期待できる事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	今回が初めての外部評価の受審である。開設後、法人全体での研修や外部研修への参加を行った。また、接遇などの業務内容に関する自己評価表に基づいて、日々の業務の振り返りを行ったり、段階に応じた研修会への参加を通じて、人材育成を積極的に行うなどの取組みがある。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回が初めての外部評価の受審である。グループホーム会議で、外部評価についての意義や評価項目の内容について勉強会を行う取組みがある。自己評価は、管理者や介護支援専門員がチェックを行い、全職員にて内容を確認し、日々のケアについて協議するなどの取組みがある。
重点項目	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	民生委員、地域包括支援センター職員、利用者、家族等の参加のもとに1階の小規模多機能事業所と合同で2ヶ月毎に運営推進会議が開催されている。運営推進会議時に、ホームの活動状況についての報告や老人会からボランティアについての情報を得たり、家族から外出についての要望をもらうなど、運営推進会議を活かした取組みがある。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	家族の面会時や運営推進会議などを通じて、利用者の日常の様子や外出、行事参加の様子などを報告している。6ヶ月毎に担当職員が個別に手紙で健康状態や暮らしぶりなどを報告する取組みがある。意見や苦情については、申し送りなどにて全職員が内容を把握し、内容に応じてグループホーム会議にて検討し対応するなどの取組みがある。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会や自治会に加入し、利用者が地域行事の体育祭に参加したり、社交ダンスのボランティアの来訪、法人主催による夏祭りに地域の方が多数参加するなど、地域交流が積極的に行われている。近隣の商店やクリーニング店の利用、散歩時の挨拶を通じて、自然な形で地域交流への取組みがある。

2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念である「ゆっくり『穏やかに・安心 して』、にっこり『今、幸せだなあ。楽しいなあ』、しっかり 『ありのままを受け入れ、自立支援のお手伝い』」のも と、地域と利用者とのかかわりを重視して日々の業務 に取り組んでいる。常に地域との関係づくりを意識し ながら、交流が積極的に行われている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に理念が掲示されており、自然に目に入る 工夫がある。職員の名札の裏に理念を明記し、日々 の業務を行う前に理念の確認を行っている。毎月の グループホーム会議にて理念を唱和し、理念に基づ いたケアについて協議するなど、理念の実践に向け た取組みがある。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流するこ とに努めている	町内会や自治会に加入し、利用者が地域行事の体 育祭や町内会の清掃に参加したり、社交ダンスのボ ランティアの来訪、法人内施設との合同行事の夏祭り に地域の方が多数参加するなど、地域交流が積極的 に行われている。近隣の商店やクリーニング店の利 用、散歩時の挨拶を通じて、自然な形で地域交流 への取組みがある。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	今回が初めての外部評価の受審である。グループ ホーム会議で、外部評価についての意義や評価項目 の内容について勉強会を行う取組みがある。自己評 価については、管理者や介護支援専門員がチェック を行い、全職員にて内容を確認し、日々のケアにつ いて協議するなどの取組みがある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、地域包括支援センター職員、利用者、家族等の参加のもとに1階の小規模多機能事業所と合同で2ヶ月毎に運営推進会議が開催されている。運営推進会議時に、ホームの活動状況についての報告や老人会からボランティアについての情報を得たり、家族から外出についての要望をもらうなど、運営推進会議を活かした取組みがある。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議への地域包括支援センター職員の参加を通じて、行政との連絡・連携を図る取組みがある。また、運営上の疑問点などについて相談を行うなど、行政との連携を図る取組みがある。		
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	法人全体で法務局人権擁護課の職員を招いて制度に関する研修を行い、職員全体でも制度について学ぶ取組みがある。事業所内で勉強会を行い、制度に関する理解を深めている。制度に関する概要や使用方法などについてのパンフレットを準備し、必要時家族に説明を行い、活用に向けての支援を行う取組みがある		運営推進会議等を利用して、利用者・家族への説明を行い、必要な時に確実に利用できるような支援への取組みを期待します。
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時や運営推進会議などを通じて、利用者の日常の様子や外出、行事参加の様子などを報告している。6ヶ月毎に担当職員が個別に手紙などで健康状態や暮らしぶりなどを報告する取組みがある。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や行事参加時の職員と家族とのかかわりを通じて、意見や苦情を表出しやすい雰囲気づくりへの取組みがある。意見や苦情については、申し送りなどにて全職員が内容を把握し、内容に応じてグループホーム会議にて検討し対応するなどの取組みがある。		
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係を重要視するため、法人全体で行事を行うなどの取組みがある。異動時は、引継ぎ期間を設け、管理者や馴染みの職員が見守りながら指導にあたるなど、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用時には年齢・性別などの制限はない。ピアノの得意な職員に演奏してもらい、利用者と職員が一緒に歌を楽しんだり、書道の得意な職員に字を書いてもらうなど、職員の個性を尊重し、特技や得意分野での能力を發揮できる体制がある。外部研修について勤務調整を行うなどの支援体制がある。		
12	20 追加	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人全体として、法務局人権擁護課の職員を招いて研修を行い、人権教育・啓発活動への取り組みがある。法人全体の内部研修への参加を通じて、高齢者への尊厳やプライバシーの保護、高齢者虐待防止について理解を深めている。		
13 (10)	21 (19)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修案内を提示して、職員の希望や管理者が研修内容と職員のスキル・経験等を考慮して研修を促すなど、外部研修への参加の機会を確保している。法人全体で月2回以上の研修計画を立て、法人内研修、外部研修への参加を積極的に行っている。新しく入職した際は、段階に応じた法人内研修、外部研修への参加を確保する支援体制がある。		
14 (11)	22 (20)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設長や管理者などによる他事業所への見学や情報交換が行われている。外部研修への参加を通じて、他事業所との職員同士の意見交換や交流が図られ、サービスの質の向上に取り組んでいる。		グループホーム協議会主催の研修などに職員が参加し、様々な機会を通じて他事業所との情報交換や交流を図り、職員の新たな発見や気づきを生む機会を確保するなど、今後の取り組みを期待します。


外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人・家族に面談による聞取りやホーム見学などを行い、本人の様子を見ながら安心して入居後の生活に馴染めるように柔軟に対応する取組みがある。入居後は、利用者が安心して過ごせるような環境づくりに配慮し、かかわりを多く持つなど、利用者の不安を軽減し徐々に馴染めるような支援を行っている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は常に利用者に寄り添い、日常のかかわりの中で、花の名前や行事の由来、らっきょうの作り方を教えてもらうなど、人生の大先輩として自然と学びあう関係づくりへの取組みがある。利用者と職員が一緒に食事やお菓子を作ったり、食器を洗いながら言葉をかけあうなど、共に支えあいながら暮らしている関係が伺えた。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族の面会時や運営推進会議時に家族の思いや希望の把握に努めている。療養記録やグループホーム会議で情報を共有し、職員全員で意向や希望を確認するなどの取組みがある。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者との日常のかかわりを通して、利用者の意向の把握に努め、家族面会時などに個別に家族と相談しながら、家族の希望や意向の把握にも努めている。計画作成担当者や担当職員にて介護計画原案を作成し、日々の業務や月1回のグループホーム会議時に他の職員からの情報を把握し、介護計画書へ反映させるなどの取組みがある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要な 関係者と話し合い、現状に即した新たな 計画を作成している	3ヶ月毎のモニタリングと、6ヶ月毎及び状態変化の 際に、利用者、家族の意向や希望の確認を行いなが ら介護計画書の見直しや再作成を行うなどの取組み がある。毎月のグループホーム会議時に、利用者や 家族の意向の確認、支援の方針などを職員全員で検 討している。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に 応じて、事業所の多機能性を活かした柔 軟な支援をしている	協力医療機関の月1回の往診や連携支援、協力医 療機関への通院介助を行うなど、利用者の状況や家 族の要望に応じた、柔軟に対応している。利用者が入 院した際に、馴染みの関係を継続するために面会を 行い、利用者の状態を把握しながら医療関係者との 情報交換を行うなど、早期退院に向けての支援を 行っている。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納 得が得られたかかりつけ医と事業所の関 係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	契約時にかかりつけ医の継続と協力医療機関の利 用について相談し、本人・家族の意向に沿って支援し ている。ホーム協力医による月1回の往診や3ヶ月毎 の定期健診を行い、利用者の状態に応じて協力病院 への受診の支援がある。利用者の以前からのかかり つけ医への受診については、家族対応が困難な場合 は、ホームにて支援するなどの取組みがある。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、できるだけ早い段階から本人や家 族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有している	契約時、重度化した際や終末期のあり方について、 利用者の意思をふまえた上で家族の意向や希望を把 握している。できるだけ早い段階でのホームとしての 重度化や終末期ケアへの対応指針の説明と、本人・ 全家族への意向の確認、本人・家族の思いに沿った 支援体制については、今後の課題である。		できるだけ早い段階で、ホームとしての方針を説明 し、本人・全家族への意向の確認、本人・家族の希 望に沿った支援体制づくりが整えられることを期待し ます。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	日常のかかわりの中で常に尊厳を持った支援を心 がけ、法人全体の研修やグループホーム会議を通じ て、職員の意識の向上を図る取り組みがある。利用者 への言葉かけは、タイミングを見計らったのさりげない 声かけ、丁寧な呼称、視線を合わせて笑顔で傾聴す るなど、利用者の自尊心やプライバシーに配慮した対 応が見られた。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	ホームとしての大まかな一日のスケジュールはある ものの、そのときどきの気持ちを尊重し、決して無理 強いせず、様子を見ながら声かけを行っている。利用 者の希望や状況に応じて、食事や入浴のタイミング、 食事のペースなど、利用者一人ひとりのペースを尊 重し支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	主菜は法人での調理であるが、副菜や汁物、おや つはホームで調理している。食材の下ごしらえや野菜 の皮むき、配膳、下膳、食器洗いなど、利用者が出来 る範囲でかかわる取り組みがある。利用者と職員が一 緒にテーブルを囲み、何気なく食事を勧めたり、食器 を入れ替えるなど、和やかな雰囲気の中で食事を楽 しめるような取り組みがある。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイミ ングに合わせて、入浴を楽しめるように支 援している	午後から夕方近くまでの時間帯で、週2回の入浴が 基本であるが、毎日の入浴も可能であり、利用者の 希望や状況に応じて柔軟に対応している。お湯は利 用者毎に入れ替えており、入浴の回数や順番、入浴 剤の使用など、個別の希望に沿って支援している。お 風呂が苦手な方にも無理強いすることなく声かけを工 夫するなど、快く入浴できるように支援している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	食材の下ごしらえや食事の準備、配膳、下膳、食器 洗い、洗濯物たたみなど、家事全般において利用者 間にて役割ができており、利用者の持っている力やで きることを引き出し、柔軟な支援を行なっている。利用 者の趣味を活かして手芸や書道を行うなど、希望や 楽しみごとへの支援も行われている。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	福岡タワーや観劇、大相撲の見学、野球観戦、地域 行事への参加、外食、買い物など定期的に計画立て ての外出のほかに、日常的な散歩や食材の買い出し など、積極的に外出を行う取組みがある。利用者が 希望すれば、近隣の商店へ外出支援を行うなど、利 用者一人ひとりの希望に柔軟に対応している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	日中は常に開錠されている。職員は利用者の様子 をきめ細かく観察、見守りを行い、さりげなく声をかけ たり、利用者と一緒に出かけるなど、利用者の自由な 暮らしを支える対応と安全面への配慮がある。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身につ け、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	年に2回、法人全体で消防署の指導による避難訓 練や避難経路の確認、消火器の使い方などの指導 が行われている。今後、運営推進会議時や近隣住民 との日々の付き合いを通じて、近隣の協力が得られ るための働きかけや避難訓練時に近隣住民へ参加を 呼びかけていく予定である。		運営推進会議時のお願いや、地域住民の参加協力を 得ての避難訓練の実現など、非常災害時に地域の 協力が得られるような働きかけを期待します。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	法人内の管理栄養士が栄養バランスやカロリーな どを考慮したメニューを作成している。年2回利用者 にアンケートをとり、食事についての希望や満足度につ いて把握し、行事食を検討する際に利用者の希望 を尊重しての支援が行われている。利用者ごとの食 事摂取量や水分摂取量の把握・記録を行うなど、栄 養摂取や水分確保への支援がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節感のある飾りつけや花、絵画、利 用者の手作り作品が飾られるなど、心和ませる家庭 的な雰囲気を醸し出している。リビングは広く開放的 であり、食卓の他にも数人が座れるソファを配置 し、ゆっくりとくつろいでいる利用者の姿が見受けられ た		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	居室には、家具、仏壇、花、テレビ、手作りの刺繍の 品々など、馴染みの物や使い慣れたものが持ち込ま れており、利用者にとって安心して居心地よく過ごせ る居室づくりへの工夫や配慮がある。		

 は、重点項目。
(数字)は、国の標準例による番号